



TARO Uchida. 52.

豊橋市美術博物館友の会だより

-2015年-夏号 **Vol. 92**  
**FU風伯HAKU**  
Summer 2015

## 展覧会紹介



# 岡本太郎と中村正義「東京展」

## 太郎 × 正義

### 日本の美術界に挑む!

8月8日(土)～9月27日(日)

月曜休館 \*ただし、9/21(月・祝)は開館し、9/24(木)休館  
 主催/豊橋市美術博物館、読売新聞社、美術館連絡協議会  
 協力/中村正義の美術館、岡本太郎記念館、現代美術資料センター  
 協賛/ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜



戦前よりパリで活躍し、日本に帰国してからはアヴァンギャルドの旗手として二科を拠点に活動を展開した岡本太郎(1911-1996)、優美で穏和な日本画を出発点とし、日展を脱退後は真逆の表現で日本画壇を挑発しつづけた中村正義(1924-1977)。それぞれ基盤は異なるものの、この二人の共通点は既存の価値観を破壊しようとする激しい闘志と革新への希望、そして絵画のジャンルすら逸脱する多面性であったといえるでしょう。



岡本太郎《傷ましき腕》1936/49 川崎市岡本太郎美術館蔵

おもしろいことに、二人がそれまで拠点としていた美術団体(二科と日展)を離脱したのは、1961年のことでした。以後、正義は太郎の激しい色彩と形象に勝るとも劣らない、自由奔放でプリミティブな色と形を追求します。さらに、太郎は縄文土器など日本文化の探求や《明日の神話》に代表されるモニュメンタルな壁画、《太陽の塔》に象徴される立体造形など、ジャンルを越えた活動を行い、正義も多様な素材を用いた制作を行うほか、

#### 「東京展」とは?

中村正義が提唱し、事務局長として推進した展覧会。東京都美術館で日展が独占的に会場使用することに抗議し、都民に開かれた美術展を掲げ、在野の美術団体やさまざまなジャンルの作家を巻き込んで1975年11月1日～20日に第1回展が開催された(日展と同時期開催)。市民参加を呼び掛け、約1600点の出品作品を集め、針生一郎のアンデパンダン方式で展示を行ったが、開催中より内紛を繰り返し、主要なメンバーは離脱した。正義自身、すでに闘病生活の最中にあり、その死期を早めたとも言われる。なお、現在も「東京展」は存続し、活動を続けている(現在は会員推薦制)。

映画や舞台美術、写楽研究やオートメーション化住宅の開発など、さまざまな分野に関わりました。

この異色の画家たちの歩みはそれまで交わることはなく、二人を結びつけた接点こそが1975年の「第1回東京展」でした。

正義を中心とする在野の画家たちの呼びかけに、すでに大阪万博などで知名度の高かった太郎が快く応じ、ダンス、舞踏、映画、アニメーション、パフォーマンス、ワークショップなど様々なイベントが行われる祝祭的な空間を盛りたてました。その後、正義は第3回東京展開催を待たずに、志半ばで病没しますが、文字通り命を削るかのようにして実現させた東京展には、正義の美術界変革への強い遺志が込められています。

本展は太郎と正義の代表作を展覧し、両者の個性のぶつかり合いをご覧いただくとともに、二人の接点である東京展の一部再現を通じ、正義が夢見、太郎が共鳴した「東京展」とは、何であったのか——、さまざまな角度から今一度検証したいと考えています。

太郎作品約50点、正義作品約50点、東京展作家約35点、1階から2階まで美術博物館の全館による展覧を行います。太郎と正義のデザインや「顔×顔」など両者の仕事を比較するテーマ展示も見どころのひとつです。この夏、美術の革新に燃えた太郎と正義の熱い闘いをぜひご覧ください。  
 (主任学芸員 丸地加奈子)

パリ時代の代表作。抽象表現に限界を感じた後、このような超現実的表現を試みた。戦前の作品は戦火で焼失したため、本作品は1949年の再制作。

正義の日展時代の代表作「舞妓」と「太郎と花子」は、当館では初めての展示。よくみると舞妓の目は赤く塗られており、穏やかな表現の中に正義の反骨精神の萌芽がうかがえる。



中村正義《舞妓》1958 荒井神社蔵



岡本太郎《明日の神話》1968 川崎市岡本太郎美術館蔵

メキシコのホテル「オテル・ド・メヒコ」からの依頼を受けて手掛けた壁画の下絵。幅30mの壁画本体は長い間行方不明であったが、2003年に発見され、修復を経て現在は渋谷駅に設置されている。原爆と人間の未来を描いた本作品も幅約11mの迫力。



《太郎人形》  
川崎市岡本太郎美術館蔵

映画『怪談』のため制作した源平海戦絵巻。武者や女御らの表情も豊かに描かれている。5作品のうち、3作品を展示する（展示替有り）。この「玉楼炎上」は前期（8月中）の限定展示のため、お見逃しなく。

**太郎に会える!?**  
東京展会場入口で来場者を迎え、人気を博した本物そっくりの太郎人形が登場。



井上長三郎《白い椅子》1968  
板橋区立美術館蔵

井上長三郎は自由美術を率いて東京展に参画した。本展では井上を含め、35名の東京展作家を展示。



中村正義《源平海戦絵巻 第三回「玉楼炎上」》1964  
東京国立近代美術館蔵



天井棧敷《釘》  
(写真提供：テラヤマワールド)

寺山修司「釘」のスライドショーや松本俊夫「色即是空」などの映像展示も行う。



四谷シモン  
《未来と過去のイヴ》  
1973 個人蔵

## イベント等

### ■記念座談会「〈東京展〉とは何であったか」

9月6日(日) 午後2時～ 講義室 (聴講無料・当日先着順)  
出席/笹木繁男 (現代美術資料センター主宰) ほか第1回東京展出品作家

### ■ギャラリートーク

8月8日(土)、9月5日(土) 午後2時～  
講師/川崎市岡本太郎美術館学芸担当課長・仲野泰生×豊橋市美術博物館担当学芸員



中村正義《爽爽》(右隻) 1963年 愛知県美術館蔵

### ■琵琶演奏会「平家物語」

8月15日(土) 午後6時30分～7時30分  
演奏/北川鶴昇  
定員/80名 ※要申込 (7月17日から電話受付)

### ■映画上映会

#### 「中村正義・父をめぐる旅」

8月23日(日)・9月13日(日) 午後2時～3時40分  
会場/美術博物館講義室 定員/80名 (当日先着順)

### ■「絵とピアノが織りなす即興絵巻コンサート」

8月28日(金) 午後6時30分～8時 (詳細はチラシ参照)

### ■ダンス・ワークショップ

9月20日(日) 午後2時～4時  
講師/中嶋夏 (舞踏家)  
対象/5歳以上の知的障がいの方 (自分で立つことのできる方) およびその介助者・健常の方  
※要申込 (7月24日から電話受付)

## 二川宿本陣資料館の展覧会紹介

## 東「貝」道五十七次展

7月18日(土)～8月30日(日) 月曜休館 \*ただし7/20(月・祝)は開館し、7/21(火)休館

二川宿本陣資料館では、東海道を中心とする江戸時代の交通、二川宿に関する郷土の歴史・文化をテーマとする企画展を開催するほか、池田遙邨、関野準一郎、山下清、棟方志功など、東海道を描いた美術作家にもスポットをあててきました。

さて、貝工芸作家で知られる水田博幸氏は、歌川広重の代表作である『保永堂版東海道五拾三次』全55点を貝細工で表現しました。さらに、オリジナル作品として、大津から分かれて大坂へ向かう、伏見・淀・枚方・守口と終着の大坂の5点についても制作し、全60点を14年の歳月をかけ完成させ、『東海道五十七次』として発表しました。

て発表しました。

今回の展覧会では、水田氏の『東海道五十七次』を、当館所蔵の『保永堂版東海道五拾三次』と比較展示し、“東「貝」道五十七次展”と題して独自の技法による美しい「貝画」の世界を紹介します。

愛知県では初公開となるこの機会、ぜひ二川宿本陣資料館へお出かけください。

(主任学芸員 高橋洋充)

## ■記念講演会&amp;ギャラリートークのお知らせ

日時：7月18日(土) 午後2時～

講師：水田博幸さん(貝工芸作家)

演題：「作家が語る貝工芸」

定員：50人(申込順)

申込み：7月3日(金) 午前9時30分から二川宿本陣資料館(☎41・8580)へ電話で



水田博幸《伏見・白狐》

## 館蔵浮世絵展 旅の楽しみ～東海道の名物～

9月5日(土)～9月27日(日) 月曜休館 \*ただし9/21(月・祝)は開館し、9/24(火)休館

江戸時代になると、街道や宿場町などのインフラが整備されるとともに、治安や経済情勢の安定化により、伊勢参りに代表される寺社参詣や温泉への湯治など、庶民でも気軽に旅に出られるようになりました。

旅の楽しみは今も昔も変わらず、日常生活からの解放によって、美しい景色を堪能することや、美味しい各地の名物を食することです。江戸時代の物流は現代よりも未発達であったため、山間部に暮らす人々は鮮魚などを日常食べることはなく、旅に出ることにより達成することができました。太平洋沿岸部にルートを取る東海道では、各地にさまざまな名物がありました。

江戸時代後期になると、浮世絵版画は、歌川広重に代表される風景画が主流となり、各地の名所や名物が描かれ、旅人の旅の一助となっていました。

本展では、東海道の名物を浮世絵版画により紹介します。江戸時代の旅の楽しみをご鑑賞下さい。

(主任学芸員 和田 実)



歌川広重《東海道五十三次(行書版)鞠子》

6月1日(月)の春の日帰り研修旅行参加者から届いた旅行記をご紹介します。

## 箱根ラリック美術館にて

鳥山忠征 (205)

友の会研修旅行を初日に申し込むが、すでに定員をオーバー。多くの方がキャンセル待ち。諦めていたが旅行3日前に電話が有り参加。箱根ラリック美術館では開館10周年記念展を開催していた。全員で記念写真。途中、2台のクラシックカー展示、ボンネットの先端にカーマスコット。私はラリックについては香水瓶しか知らず(掛川市資生堂アートハウス、香水瓶の企画展を見る)、宝飾細工、ガラス工芸品、室内装飾など初めて知る。展示室に入ると、男の私でも心ときめくジュエリー作品。流れる様な曲線、金銀、ダイヤ、真珠、ベッコウ、ガラス、七宝など使い、すっきりしたデザインに私は目を奪われる。香水瓶、ガラス工芸品も、すばらしいの一言。ミュシャのポスターは、いつ見ても、女性像は都会的で優美。ジュエリー、ステン

ドグラス、紙幣、切手、室内装飾のデザイン、油絵など時間に余裕があればゆっくり見て回りたいかった。自分の不注意で時計が止まっている事に気が付かず、出発時間を遅らせ、申し訳なく展示品共ども忘れられない美術館の一つに成る。富士屋ホテルでの昼食と岡田美術館の展示品が楽しみ。箱根ラリック美術館を後にする。



## 初めての箱根・岡田美術館「あの歌麿が帰ってきた!—深川の雪」再公開 久々の『わくわくどきどき』

北村起美子 (640)

「箱根・岡田美術館」は、あまりにも有名。誰もが今一番訪れたい美術館のひとつに違いない。解説によると、2013年秋にオープン。まだ2年にもならない新しい美術館だが、幅広く日本の美術品が収蔵されている。もっとも有名にしたのは、奇跡的に見つかった喜多川歌麿の「深川の雪」の肉筆画の公開。縦2m、横3.5mの大作を修復公開したことだ。美術番組や雑誌に大きく取り上げられた。

江戸末期、「深川の雪」、「品川の月」、「吉原の花」は、浮世絵師・歌麿の手によるもので、「雪月花」の三部作と言われる大きな掛け軸。いずれもパリに渡ったが、「月」と「花」は、アメリカの美術館で所蔵され、「雪」だけが行方知れずになっていた。一つでも里帰りができ、日本にあったのは、嬉しい限り。それを昨年、展示公開し、ブームに火がついた。

大きな5階の建物の2階に展示されているということで、久々のわくわく感とともに、まずは、2階を目指す。エスカレーター前の重厚な扉が開き、光を落した広い会場の奥に、それは、あった。「あれっ!」思いのほか小さく見える。会場があまりに広い。急ぎ足

で前に進むが、もどかしく、なかなか近付けない。やっとそれを前にし、顔を近づけ、食い入るように見る。昔、幻燈で見た映像のように、総勢27名の女たちと男の子1人が、画面の隅々まで描かれ、動き出しそうなりアルさで迫ってきた。

女たちの表情、着物の柄、手のしぐさや髪形、建具や道具の数々、皿に盛られた料理や鉢の煮付けまで、どれも一瞬を写真で撮ってきたかの様な大胆さと精密さ。ひとところでは、見きれず、少しずつ移動しながら、時間も忘れて見せて頂いた。岡田美術館では、たっぶり2時間も要して頂いたのに、3、4、5階は駆け足で、見る羽目に。狩野派の絵や掛け軸、上村松園、菱田春草、応挙や芦雪、乾山の鉢、福田平八郎の花の絵まで。枚挙に暇がないが、一瞬でも心にやきつくものばかり。

帰りは、エントランス壁面の巨大「風神・雷神図」を前に、箱根ならではの足湯につかりながら、ソフトクリームに舌鼓。

4月初めからの大涌谷噴火による風評被害で訪れる人が少ないのは、残念の一言に尽きる。

## 美術サロン報告

## 連続講座「印象派を超えた画家たち」第1回 ゴッホ

5月16日、友の会総会終了後に行われた記念講演会は、西洋美術史研究家であり、NHK文化センターの講師も勤める宮本昭義氏を迎えて開催された。

宮本氏は、高校の英語教師を退職後、この美術博物館ボランティア養成講座を受講したのがきっかけで、西洋美術史に興味を抱き、勉強を始められたとのこと、親近感が湧き、期待が膨らんだ。

今回は後期印象派と呼ばれてきた画家、ゴッホに焦点を絞って解説。後期印象派というのは、印象派の後という意味で、印象派を乗り越えた画家達と言う意味合いだと言われ、何となく判然としなかった表現に納得する。

従来、伝統的な画家として認められるには、キリスト教、ギリシャ神話、文学、歴史を描かねばならず、様式は、数学的法則、倍率、幾何学に基づく合理的な理性が美を構成するとされていた。時代の変遷と共に描く対象が変わり、印象派は自然の光、移ろう対象物の美しさをキャンパスに止めようとした。ポスト印象派となるゴッホにおいては、神や教会は太

陽となり、糸杉は自我を表現するなど、モチーフの置き換えを行っていると言う。スライドによる絵の解説では、「種を播く人」は神の言葉を拾うということであったが、教会は太陽に変化し、「泥炭を掘る人」「馬鈴薯を食べる人々」など必死に働く、滅びることの無い人間の生を描いた。33歳頃、パリのモンマルトルで抒情性のある花の絵、色彩の対比の実験など静物や風景を描くようになった。その頃、日本の浮世絵にも惹かれ、絵の中に取り入れるようになった。35歳頃、南フランスのアルルに行き、ゴーギャンを迎えての共同生活もうまくゆかず、有名な耳切事件が起こる。アルル時代の色調の主音は黄色と青であるが、その後の「白い雲のあるオリーブ畑」で敵は、視点がうまく収斂してゆかない自我を描いている、と言う。こうした画風の変化に注目することや、モチーフが何を表すかに視点を置くとより理解が深まる、と締め括られ熱意の伝わる講演であった。

(河邊満江)

◆第3回セザンヌ 9/26(土) 14:00～

## 寄稿 リアリズムの探究者 森清治郎と野田弘志展 水谷好克(747)

野田弘志画伯は言われる、自分と東京藝大の先輩、森清治郎との共通点は「融通の利かないところだ」と。それがまことによくわかる展覧会が、いま名豊ギャラリーで催されている。

愚直、としか言いようのないほど誠実な精神で描かれた絵の群、森さんは野田さんに、風景を描く時は地球を描く気構えで描くべし、大地を描き、その上に草を、木を、一本一本植えていく気持ちで描け、と言われたそうだ。お二人の画群を見ると、その写実精神が響きあうようによく見える。森作品のタブロー12点、野田作品のタブロー18点、それに野田さんの鉛筆デッサン16点の計46点が展示されている。なんとこれが無料だ。6月12日(金)～7月5日(日)、会期中無休、午前10時～午後5時。

豊橋市は森・野田両画伯の重要な作品をよく点綴していて、お二人の画業がよく見える実にすばらしい展覧会になっている。今回それに加えて、お二人に縁の深い広島県の、瀬戸内海に浮かぶ下蒲刈島の蘭島閣美術館から森作品4点、野田作品8点もが出品されている。つまりこれは、本来広島県まで行かな

ければ見られない絵で、この機会にぜひ見ておくべしと思う。

入口に森さん44歳、野田さん29歳の時の貴重なツーショットがある。また森さん野田さんそれぞれの写真がある。野田さんのは現在の堂々たる姿だ。森さんのは、ああ、清治郎先生は生前、よくこういう子供のような笑顔をされたなあ、ということ思い出させる、ほんとに屈託ない表情をしている。これを見るだけでもこの展覧会に来る価値があるであろう。



左から：同展キュレーター大野俊治氏、野田弘志氏

## はじめまして よろしく! 新規理事・職員紹介

加藤基吉 (9)



美術館めぐりは好きで以前から私も家内とよく回っておりましたが、仕事として開催する立場になってからは、3年目となります。まったく別の職場から移った1年目は2、3週間の引継ぎのあと、すべて1人で

こなすことになり、ご迷惑も顧みず先任者や豊橋市美術博物館に電話をかけまくり、なりふり構わず教えて頂きました。今もなおその状態を引きずっておりますが、元来好奇心の強い私は、この未知の世界の魅力にどっぷり取り憑かれてしまった様な気がします。

今考えると恥ずかしいのですが、当初地元作家さんの名前は、ある絵画教室で教えて頂いた森清治郎先生

を唯一存じ上げていた程度です。それも森先生がどれほどの方かも理解できていなかったと思います。しかし幸いにもこの仕事にめぐり合え、多くの作品を間近に拝見し、感動を覚えながらも、地元豊橋が輩出した作家の多彩さ、完成度の高さ、画壇に与えた影響の大きさに驚きと誇りを感じ、一人でも多くの方々にこの魅力をお伝えしたい気持ちで仕事しております。

3年目の今年が目玉は、洋画部門では「リアリズムの探究者～森清治郎と野田弘志展」です。お二人とも地元時習館高校出身の画家ですが、師弟関係にありリアリズムの真髄を受け継ぎながら、それぞれが独自の世界を築き上げています。豊橋市美術博物館あつてのコパンザメのような名豊ギャラリーですが、微力ながら地元芸術文化に貢献してまいります。



所属 美術博物館・主幹

氏名 田中 伸治

趣味 散歩、旅行

好きな芸術家 葛飾北斎、モネ

抱負 常設展示室、収蔵庫の増築工事を進めていますが、多くの皆様に来館していただけるように努めていきたい。

友の会へ一言 美術博物館の運営にご理解、ご協力いただきありがとうございます。これからも魅力的なイベント、事業を実施していただき、益々発展されることを期待いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

◆お世話になりました 河合幸子さん (美術博物館主幹→市民協働推進課課長)

## 豊橋市美術博物館友の会 賛助会員一覧 (50音順・敬称略)

友の会活動へご支援をいただきありがとうございます。

株アーチザン/株アイセロ/青山建設株/朝日新聞豊橋中央販売株/旭精機株/渥美運輸株/株荒木石油店/井口土建株/株イズミテック/株イデアル・アトレ/エール・フォルトゥーナ/宗教法人円成寺/大岩整形外科・皮フ科/大島整形外科クリニック/株オーテック/株小倉屋/ガステックサービス株/株金田石油店/管財株/共和印刷株/国盛商業株/光生会病院/有高誠堂/権田脳神経外科/サーラ住宅株/株サーラビジネスソリューションズ/三遠機材株/医療法人社団 三遠メディメイツ/株三光製作所/株シミズ/杉本屋製菓株/株SM電機工業所/株精文館書店/有創喜商会/総合警備保障株豊橋支社/大三紙業株/株大仙 額縁事業部/ダイハツ豊橋株/学校法人高倉学園/タキカワ整形外科クリニック/株中部 中部瓦斯株豊橋支店/中部瓦斯株/中部ガス不動産株/中部採石工業株/東三建設株/特別養護老人ホーム 作楽荘/トビー海運株/豊川信用金庫豊橋支店/トヨネ株/豊橋塩業株/株豊橋園芸ガーデン/豊鉄観光サービス株/豊橋才能教育こども園/豊橋商工信用組合/豊川信用金庫総合企画部/豊橋鉄道株/有中西会計事務所/SMBC日興証券株豊橋支店/日本放送協会名古屋放送局豊橋支局/ハタノ耳鼻咽喉科/株花田工務店/株ピオック/疋田歯科医院/学校法人藤ノ花学園/株プライズメント/株紅久商店/峯雲会/株豊川堂/本多プラス株/松坂司法書士事務所/株丸金商会/mixs./株三菱東京UFJ銀行豊橋支社/株都デザイン/向山デベロッパ株/村田小児歯科センター/株メガネ流通センター/株物語コーポレーション/やまざき歯科クリニック/ヤマサちくわ株/弥生病院/有楽製菓株豊橋工場/ユタカコーポレーション株/横山内科/老人保健施設ベルヴェールハイツ/有若松園/ワルツ株

以上88社 (2015.5月末現在)

## 収蔵品紹介

## 金銅装馬具

金色に輝く、きらびやかな馬具。さまざまな色ガラスをねり合せた、トンボ玉。盛大に行われた墓前儀礼で用いられた、数々の器。馬越長火塚古墳の出土品は、東海地方の古墳出土品のなかでも白眉の存在として、平成24年に国の重要文化財に指定されました。

馬越長火塚古墳は、豊橋市石巻本町にある全長70メートルの前方後円墳です。築かれた時期は6世紀の終わりごろ。聖徳太子が活躍した時代よりも少し前のことになります。

ここでご紹介する出土品は、すべて発掘調査で出土しました。中でも金色に輝く馬具は、鉄製の地金に銅板を巻き、金メッキを施した「鉄地金銅張り」という複雑な技術で作られたもの。金無垢の製品はもろく弱いため、このような製作技術が古代の中国で考案され、朝鮮半島を通じて倭国（当時の日本）にもたらされたのです。

馬具の中に「ヒイラギ」の葉によく似た装飾品があります。「棘葉形杏葉」と呼ばれるこの馬具は、朝鮮半島で生みだされ、倭国で引き続き製作されました。文様の意匠である忍冬唐草文は、ステッフルト（草原の道）を通じて西方から倭国にもたらされたものです。

トンボ玉を含め、馬越長火塚古墳の出土品は国際

まごしながひづか  
愛知県馬越長火塚古墳出土品(古墳時代)

[重要文化財]



色にあふれています。古墳の被葬者は、こうした貴重品を所有できる権力を持ち、国際的な情報を入手しやすい立場にありました。被葬者に推定されている、穂の国造の性格をそこにかがうことができるでしょう。

(豊橋市文化財センター 主任学芸員 岩原 剛)

◆7/4(土)～7/26(日) 常設展にて公開

## 編集後記

編集後記を担当することになって改めて、私が何故美術館友の会に入ったかを自問自答しています。

友の会の研修旅行、音楽会、展覧会鑑賞は、楽しい行事です。忙しい日常の息のつまりそうな思いのなか、美しいもの、楽しいもの（難解なものも含めて）を求めてふらっと美術館へ行くと心が空っぽになる気がして寄っていたかと思う。

ずいぶん前に、三岸節子の美術館に行った時、展示された絵を追ってゆくと年代別に展示されており、節子の一生に触れた思いで感動しました。外に出ると、思わぬ粉雪の舞う風景で、真っ白な街をものいわず帰ってきた日を思い出します。私達の美術館が皆にとってもそんな美術館になればと思う。(富田真知子)

## [表紙作品]

岡本太郎《装える戦士》1962年 油彩・キャンバス  
川崎市岡本太郎美術館蔵

◆岡本太郎と中村正義「東京展」にて公開

## 豊橋市美術館 友の会だより「風伯」第92号

編集・発行 豊橋市美術館友の会  
会 長 宮田正人  
編集長 高須博久(副会長)  
編集部長 高須博久  
編集委員 鈴木冷子 神野志保子 河邊満江 富田真知子  
藤本逸子 清水貴裕  
協 力 豊橋市美術館  
〒440-0801 豊橋市今橋町3-1 TEL.0532-51-2882  
平成27年6月30日発行